

政務活動費活動報告（視察）

(1) 出席者（会派名・個人名）
会派 夢みらい 小川 喜三郎

(2) 実施日：
平成26年1月17日

【1. 調査の目的】

(1) 本市における現状

現図書館は狭隘であり、設置場所も北端であり、利用者の利便性を図る必要がある。
定住自立圏構想に基づき、圏域内の図書館の相互利用のシステムを確立する必要がある。
自治会等地域の活性化や役員等人材の育成

(2) 本市における課題

拠点（中央）図書館の新規建設と分館（地域館）の相互利用について
行政としての地域活動や人材の育成についての支援策（補助金含む）について

【2. 調査地選定理由】

(1) 調査項目

① 中央図書館の機能や分館との連携 ②市民の手によるまちづくりへの支援

(2) 選定地1：愛知県田原市

選定地2：愛知県知多市

【3. 調査結果】

(1) 内容

・田原市中央図書館は、利用者を市民に限定されておらず、利用者カードを作成することにより誰でも図書の貸し出しに応じている。さらに生涯学習と学校教育支援を図書館の役割とされており、人口規模別都市としては利用率は全国第二位であった。指定管理者制度をとらず図書館司書は常勤10名嘱託21名と充実されていた。新規図書購入は、毎週サンプルを届けるため、選定には十分時間をかけておられた。受付コーナーが3か所あり貸し出しだけでなく、資料の選定など市民サービス面では極めて充実していた。また、市民活動のためのスペースも数カ所設置されており、生涯学習の拠点であった。

・知多市では、各種団体への補助金を一括して小学校区のコミュニティ組織に交付金として公布し、住民自らが地域課題解決のため知恵を出されていた。用途を制限せず交付金事業はコミュニティ協議会でプレゼンを行いその上で決定されていた。

(2) 考察

・田原市は、図書館サポーターの充実。レファレンス・サービスの徹底。候補地選定で文化ホール、体育館、情報センターと図書館を同一敷地内に建設し、文化・芸術・スポーツを一体的に推進されていた。その一つが駐車場を併用できること。市として各施設がおおいに連携ができるとのことであった。

・知多市では、行革の一環として補助金の総額の低減化と市民の地域課題解決のため、住民自らが企画し行動することや人材育成に行政が積極的に支援されていた。各コミュニティのOBがボランティアで研究活動の報告書を作成し配布されていた